

保険財政に関する重要指標の動向

関連する主な経済指標

●毎月勤労統計調査（厚労省） 7月18日発表

○きまって支給する給与（基本給、時間外給与等）

常用雇用労働者数5～29人の事業所、一般労働者（平成22年の平均＝100）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成 21	100.3	100.6	100.8	101.1	99.2	100.1	99.7	99.4	99.4	99.9	100.1	100.1
22	99.2	99.8	100.2	100.7	99.3	99.9	100.4	99.7	99.9	100.2	100.3	100.6
23	98.5	99.5	100.5	100.6	98.8	99.6	99.7	99.5	99.4	99.7	100.0	100.5
24	98.6	99.4	100.1	100.6	98.8	99.9	100.1	99.8	100.1	100.5	100.3	100.6
25	99.3	100.2	100.9	101.6	99.8							

●中小企業月次景況観測（商工中金）6月25日発表

6月の景況判断指数は49.6（前月比1.4ポイント上昇）。

3ヶ月ぶりに上昇した。7月も上昇を見込む。

※景況判断指数が50を上回れば、調査対象企業の景況判断が前月より「好転」を表し、50を下回れば「悪化」を表す。

●日銀短観（3月分業況判断DI）7月1日発表

	2011/3月 → 2012/6月 → 2012/9月 → 2012/12月 → 2013/3月 → 2013/6月						先行き
							(9月まで予測)
＜中小企業＞（「良い」－「悪い」・％）							
製造業	-10	-12	-14	-18	-19	-14	-7
非製造業	-11	-9	-9	-11	-8	-4	-4
＜大企業＞							
製造業	-4	-1	-3	-12	-8	4	10
非製造業	5	8	8	4	6	12	12

※企業経営者に、経営状態が「良い」「さほど良くない」「悪い」の選択肢から一つ選んでもらい、「良い」と答えた企業の割合から、「悪い」と答えた企業の割合を引く。この数字の変化で、経営者の景気判断の変化を把握する。

●月例経済報告（内閣府）7月23日発表

総論

景気は、着実に持ち直しており、自律的回復に向けた動きもみられる。

雇用情勢

賃金をみると、定期給与はこのところ持ち直しの動きがみられる。現金給与総額はこのところ底堅く推移している。

先行きについては、厳しさが残るものの、改善していくことが期待される。

●景気動向指数(内閣府) 7月19日発表

5月分(確報)

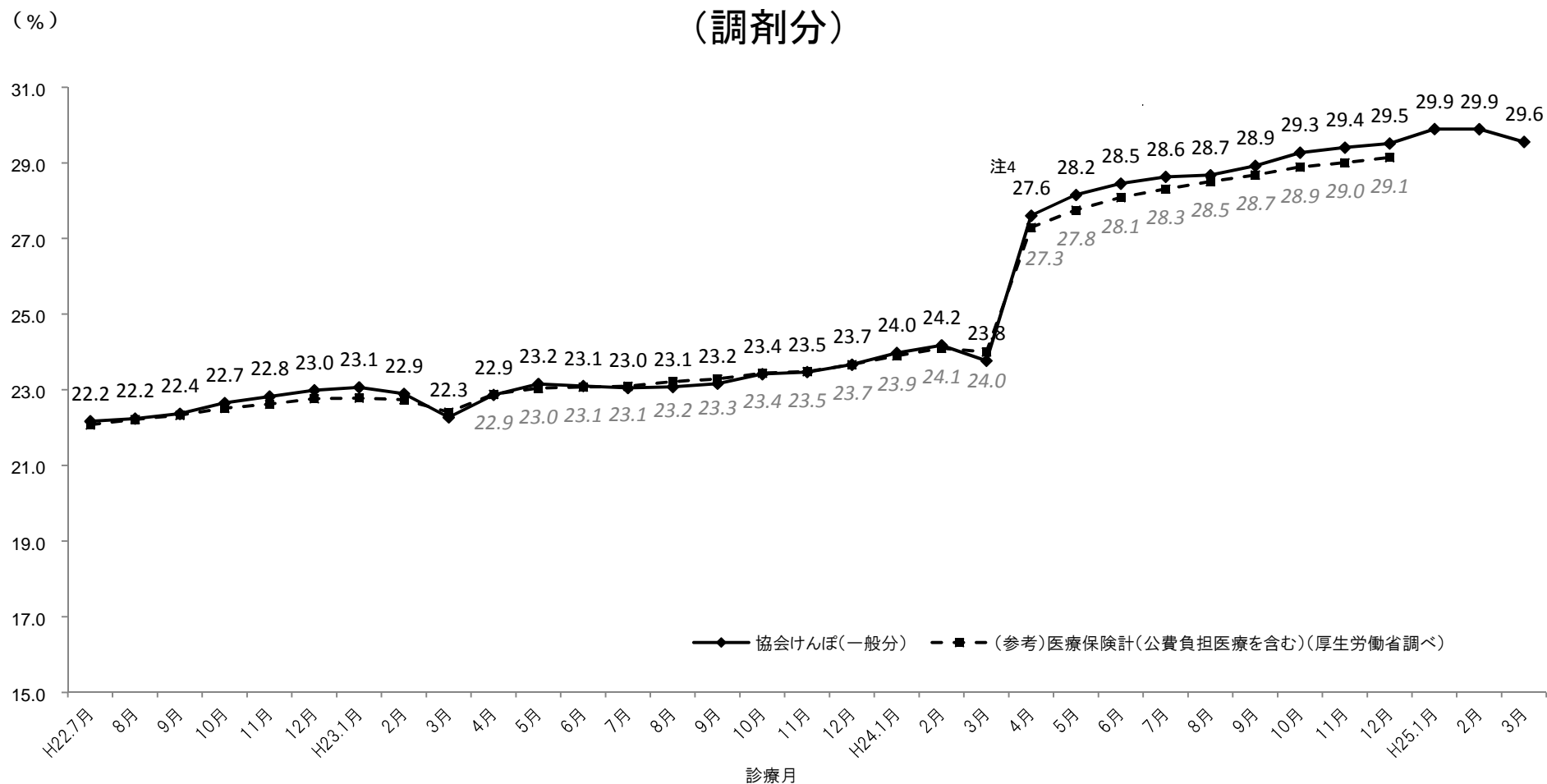
一致指数：前月比0.9ポイント上昇し、6ヶ月連続の上昇

先行指数： 3.0ポイント上昇し、6ヶ月連続の上昇

遅行指数： 1.0ポイント上昇し、2ヶ月振りの上昇

※景気の現状把握及び将来予測に資するため、景気に敏感に反応する各種の経済指標を統合して作成。

ジェネリック医薬品使用割合（数量ベース） （調剤分）



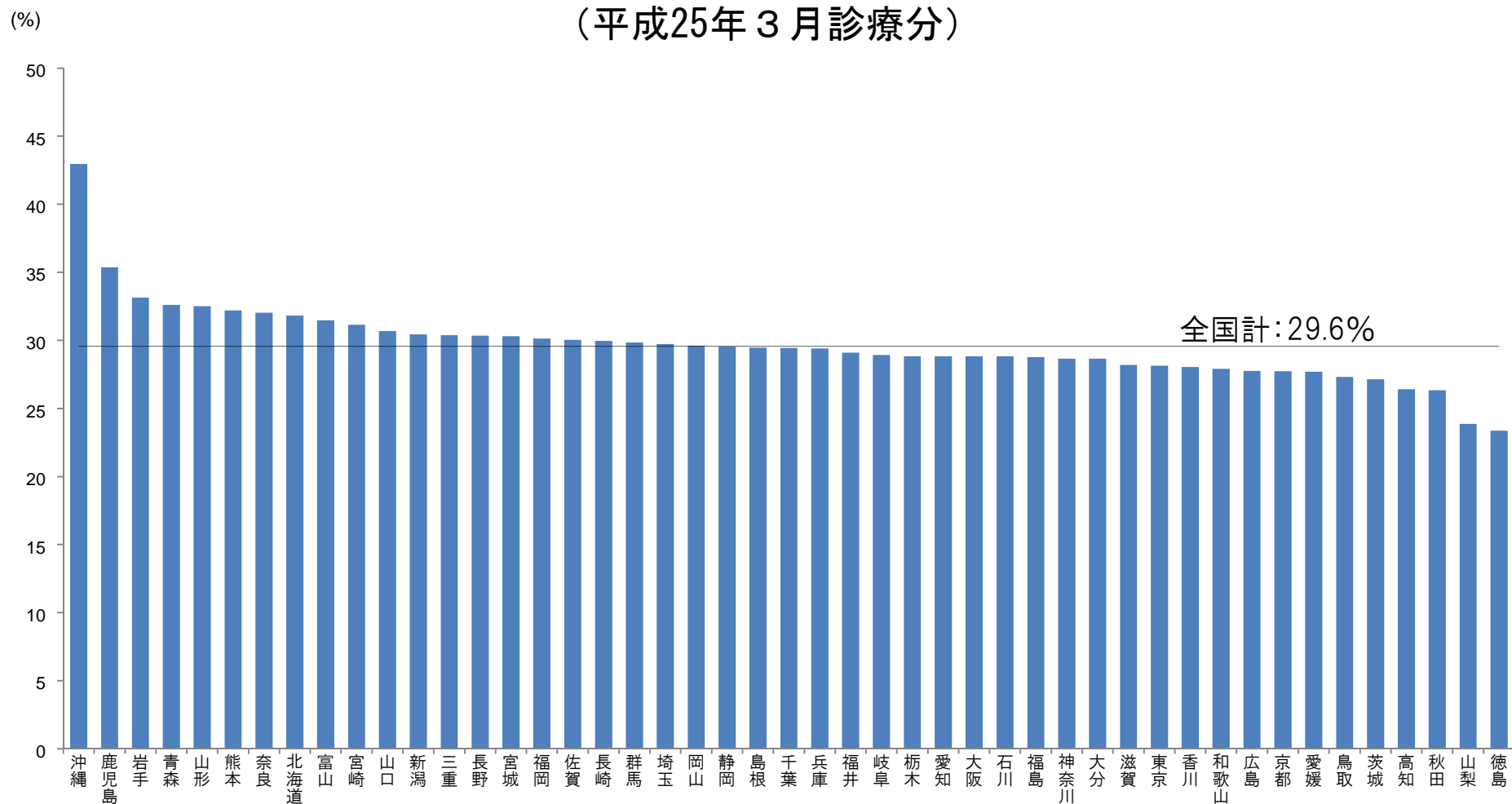
注1. 協会けんぽ(一般分)の調剤レセプト(電子レセプトに限る)について集計したもの(算定ベース)。

注2. 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。

注3. 医療保険計(公費負担医療を含む)は、厚生労働省調べ。

注4. 平成24年4月以降は、後発医薬品(数量ベース)の算出から、経腸成分栄養剤及、特殊ミルク製剤、生薬及び漢方製剤は除外している。このことによる平成24年4月のジェネリック割合(数量ベース)への影響は+2.3%ポイントとなっている。

都道府県支部別ジェネリック医薬品使用割合（数量ベース）（調剤分） （平成25年3月診療分）



注1. 協会けんぽ（一般分）の調剤レセプト（電子レセプトに限る）について集計したもの（算定ベース）。

注2. 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。

注3. 加入者の適用されている事業所所在地別に集計したもの。

注4. 平成22年4月以降は、後発医薬品（数量ベース）の算出から、経腸成分栄養剤及び特殊ミルク製剤は除外している。

注5. 平成24年4月以降は、後発医薬品（数量ベース）の算出から、経腸成分栄養剤、特殊ミルク製剤、生薬及び漢方製剤は除外している。このことによる平成24年4月のジェネリック割合（数量ベース）への影響は+2.3%ポイントとなっている。